

地方創生とジェンダー平等 —女性に選ばれる地域へ—

瀬戸内町男女共同参画推進総合計画 (特に「地方創生」に関連する重点目標と主な施策を抜粋)

- I ジェンダー平等意識の浸透
- II 様々な分野における男女共同参画の促進と方針等決定過程への女性の参画拡大
政治・行政や職場、地域活動における女性の参画拡大と女性同士のネットワーク形成 など
- III 働きやすく、働きがいがある働きたい職場づくり
ジェンダー平等の意識改革と一人ひとりが個性と能力を發揮できる職場づくり、就労支援など
- VII 協働・協創による持続可能な地域経営の推進
地域活動におけるジェンダーバイアスの解消と意思決定過程への女性参画の拡大

■ジェンダー平等を核とした持続可能な地域づくり

2015年に始まった『地方創生1.0』は、人口減少に歯止めをかけるとともに、東京圏への過度の人口集中を是正する地域活性化の戦略でした。主に起業支援や雇用の創出による人口流出対策が進められましたが、必ずしも女性が求める働き方や生活環境が提供されたとはいえ、流出を食い止めることはできませんでした。課題の本質は、「雇用の有無」より「環境の質」にありました。

昨年6月に基本構想が閣議決定された『地方創生 2.0』では、この反省を踏まえ、ジェンダー平等の実現が重要な要素として位置付けられました。雇用創出と男女の賃金格差の是正、柔軟な働き方の導入のほか、意思決定過程への女性の参画を推進し、固定的役割分担意識やアンコンシャス・バイアス(無意識の偏見・思い込み)を解消することで、女性に選ばれる地域社会を実現することが、人口減少対策の最重要テーマとなっています。

■地域に残る「3つの壁」

1. 女性が働く環境の不足

賃金や育成、登用に男女格差があり、女性にとって「働きやすく」「働きがい」があり、「キャリア」が描ける職場が少ない。

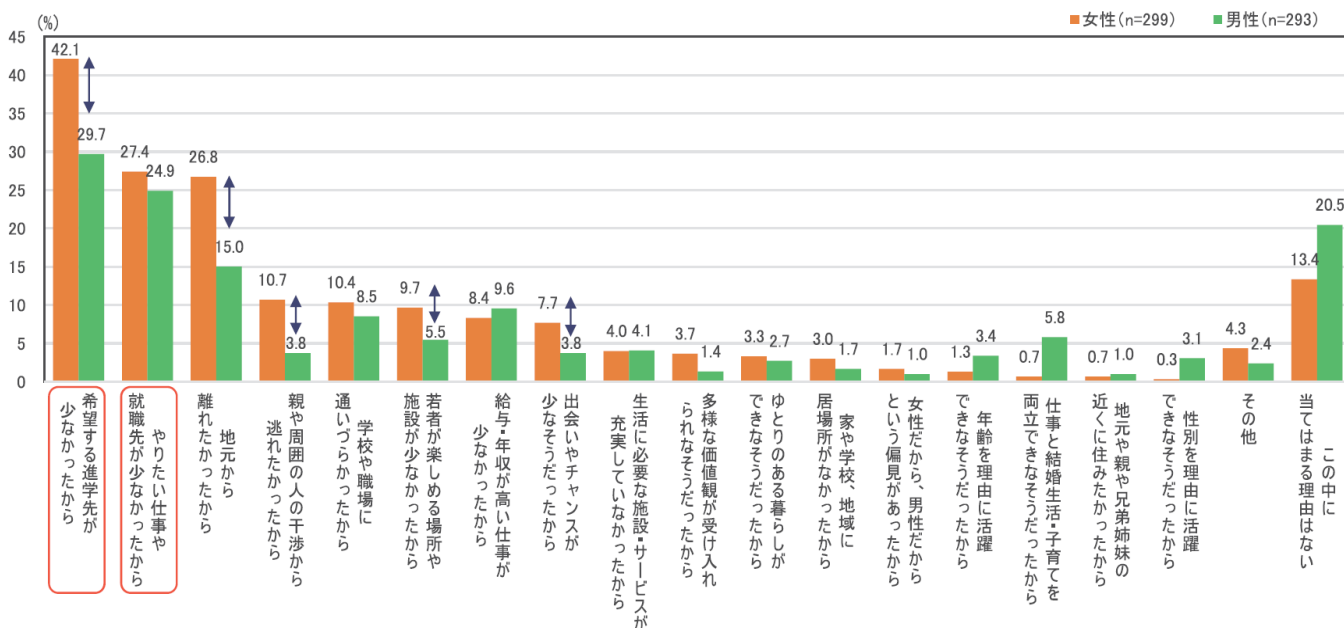
2. 固定的性別役割分担意識

「男は仕事・女は家庭」という意識が根強く、若い世代の「共働き・共育て」価値観とズレが生じている。

3. 意思決定に女性が少ない

政治や行政、地域コミュニティなどで施策や方針を決定する場合は依然として男性中心。女性の声が届きにくく、反映されにくい構造。

【若い世代が出身地域を離れた理由】(対象:自己都合で東京圏以外から東京圏に転居した20代と30代の男女)
男女とも「希望する進学先」や「やりたい仕事」が少なかったからが多く、女性は「地元から離れたかった」も多い。

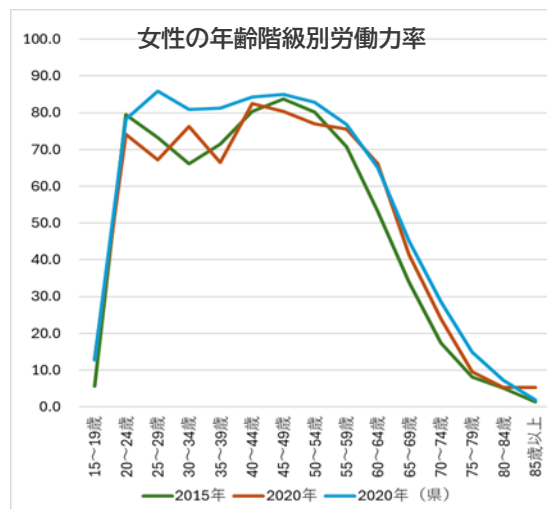
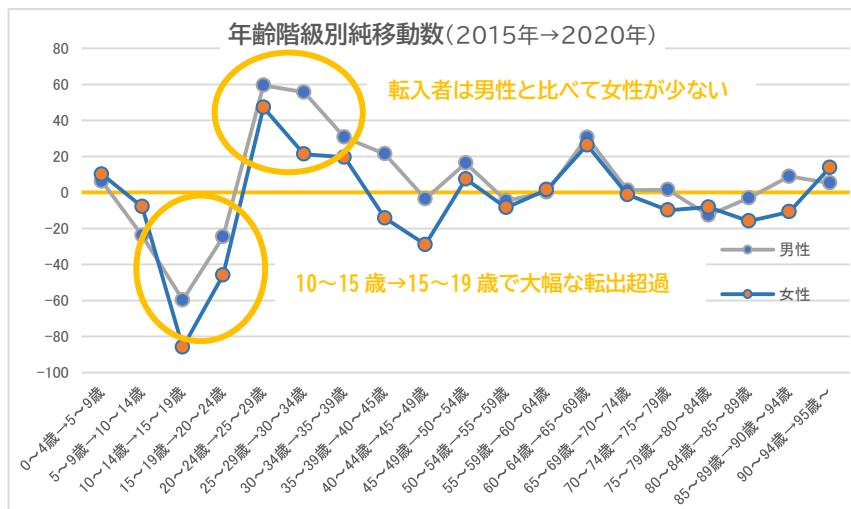


【出典】内閣府「令和6年度地域における女性活躍・男女共同参画に関する調査」

■データで見る本町の現状

本町では、進学や就職の時期に当たる10代後半から20代前半にかけて転出者が多く、一定程度戻っても人口減少が続いています。ただし、転出者は減少傾向にあり、2019年の自衛隊分屯地の開設に伴い、20代後半から30代の転入数が増加しました。女性は、男性より転出者が多く、転入者が少ない傾向にあります。

女性の労働力率は、県全体の女性の労働力率より低く、20代後半と30代後半でその差が広がります。また、非正規雇用率は、男性の約2割に対して女性は約6割と高い状況です。



※純移動数とは、転入者から転出者を差し引いた数。例えば、15歳～19歳→20歳～24歳の項目では、2020年に20～24歳である者の人口が2015年に15歳～19歳であったときに比べてどう変化しているかを示している。【出典】地域経済分析システム(RESAS)

【出典】「国勢調査」

■若い世代の本音 ※「2022年度瀬戸内町男女共同参画に関する住民意識調査」20代と30代の自由記述から

豊かな伝統文化や温かな人間関係は地域コミュニティの魅力です。一方、固定的な性別役割分担を背景とした慣習や行事、活動が根強く残っていることから、「女性だから」「男性だから」という役割の割り当てを生み出し、男女双方にとって負担感や不平等感につながっています。

この「性別役割の固定化」が、女性が地域から流出する要因の一つになっています。

地域コミュニティにおける性別役割の固定化やアンコンシャス・バイアスを解消することは、地方創生の基盤として必要不可欠な取組です。



■ジェンダー平等推進により変わる地域、3つのメリット

1. 女性流出の歯止め

魅力的な地域になることで定着率が向上。働く場や将来の結婚や子育ての場として選ばれ、人口減少が緩和されます。

2. 人材の確保

少子高齢化に伴い地域社会を担う人材が不足する中、これまで参加が低調だった30代女性等が能力を発揮することで、地域の新たな担い手となります。

3. 多様性による地域活性化

地域社会の意思決定の場に女性が参画し、多様な個性や能力、視点やアイデアを活かされることで、経済やコミュニティに革新をもたらします。

3月8日は『国際女性デー』

国連がジェンダー平等社会の実現に向けて制定。この日にちなみ国内外で様々な啓発活動が展開されます。ジェンダー平等について、身近なところから考えてみませんか？